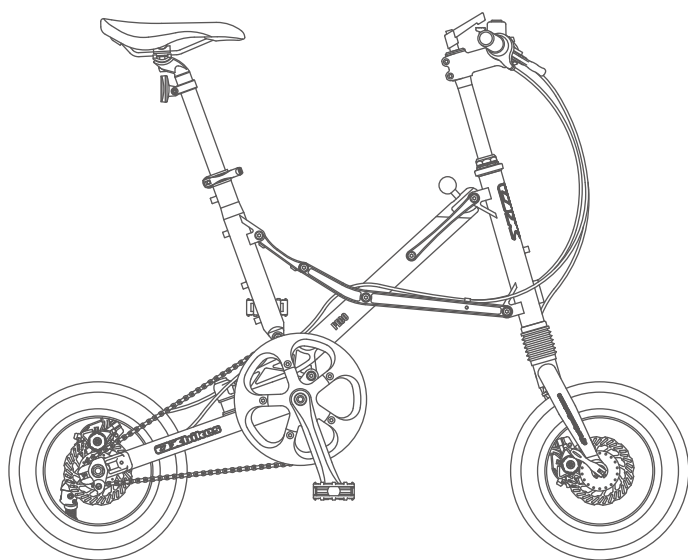
取扱説明書

折りたたみ自転車 PECO

型式：OX-FB03

この度は当社の商品をお買い求めいただき、ありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。とくに**「安全上のご注意」**は必ずお読みください。

●本書の内容には、自転車の点検と整備の知識と技能を必要とする内容が含まれます。点検・整備などに不安のある場合は、販売店にご相談ください。
●本書を読み終えた後は、大切に保管し必要に応じてご活用ください。

＜もくじ＞ （ページ）

⚠ 警 告

●一般の自転車と乗車感覚が異なりますので、平坦な公園や広場で十分に練習し乗車感覚をつかんでから使用してください。
●道路で使用する場合には、ベル、ライトを装着し交通ルールを守ってください。
●折りたたみおよび組み立ての操作時には、車体の可動部分には触れないでください。手を挟むおそれがあります。
●必ず乗車前に点検を実施してください。
●雨天時は滑りやすく危険です。また、悪路は走行しないでください。
●道路の凹凸、縁石などでの走行は注意してください。操作が不安定になるおそれがあります。
●ガタや異常があるときは使用しないでください。すぐにお店にご相談ください。
●商品の仕様、その他の変更により、この取扱説明書の内容やイラストと実車が異なる場合がありますがご了承ください。

安全上のご注意

※ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
※ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
※誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、次の区分で表示しています。これらを守らないと事故につながったり、ケガをしたり、自転車が壊れるなどのおそれがあります。

【表示の意味】

⚠警告 この表示の欄は、取り扱いを誤った場合、使用者が「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠注意 この表示の欄は、取り扱いを誤った場合、使用者が「傷害を負ったり、物的損害を負う可能性が想定される」内容です。

禁止 この表示の欄は、「安全上してはいけない危険行為および保証範囲外の行為を表す」内容です。

強制 この表示の欄は、「使用者に必ず実行していただく」内容です。

⚠警告

●安全かつ快適にご使用いただくために、必ずこの「取扱説明書」をよく読み、理解してからお使いください。
●まちがった取り扱いや調整は事故につながる危険があります。警告、注意、禁止、強制事項を必ず守ってください。
●乗るまえの「日常点検」と、販売店にお願いする「初回点検・定期点検」を必ず実施してください。
●お子様が使う場合は保護者の方が必ず読んで、正しい乗り方と、してはいけないことをよく指導してください。
●故障、修理などで部品の交換が必要な場合は、必ず当社純正部品を使用してください。
●取り扱い方がわからないときは、お買い求めのお店に相談してください。

安全上のご注意

お使いになる人や他人への危害、財産の損害と自転車が壊れることを未然に防止するために、必ずお守りください。

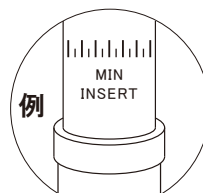
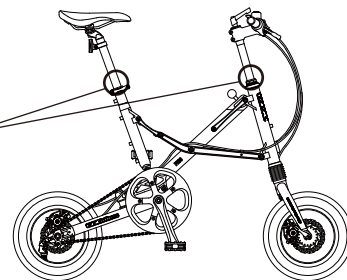
⚠警告　危険です､乗る前に必ず点検してください！
異常を発見したら使用しないでください！

フレームやクランク、ペダルなどの部品に変形やヒビ割れはないか

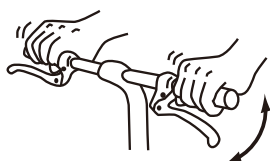
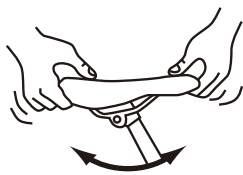
禁止　絶対曲げ戻して修理をしない。

走行中に壊れて事故・けがのおそれがあります。

シートポスト・ハンドルポストは限界標識がかくれるまで差し込まれているか

（点検方法⇒P.10）

図は限界標識の例

シートポストやハンドルポストの折れや抜けにより事故・けがのおそれがあります。

フレーム・ハンドル・サドルの固定は十分か

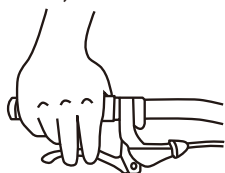
（点検方法⇒P.10）

操縦できなくなり、事故・けがのおそれがあります。

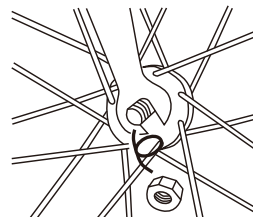
前輪・後輪の固定は十分か

（点検方法⇒P.11）

走行中に外れて事故・けがのおそれがあります。

ブレーキはよく効くか

（点検方法⇒P.10）

止まれずに衝突して事故・けがのおそれがあります。

ネジがゆるんでいるところはないか

ゆるんでいるところが壊れて事故・けがのおそれがあります。

●その他の点検項目は9～11ページをご覧ください。

タイヤの空気圧は適正か

（点検方法⇒P.11、16）

空気圧が低いと早くタイヤが減り、パンクもしやすくペダリングが重くなります。

安全上のご注意

⚠警告　危険です、危ない乗り方をしないでください！

乱暴な乗り方はしない

禁止　階段や縁石の乗り降り
アクロバット走行など

自転車が壊れて事故・けがのおそれがあります。

夜間や暗いところでは無灯火で乗らない

禁止

事故・けがのおそれがあります。

強制　必ず前照灯（ライト）を装備し、点灯してください。ライトが点かないときは降りて押してください。

2人乗りをしない（道路交通法で禁止）

禁止　ハブステップの禁止

操縦が不安定で転倒したり、自転車が壊れて事故・けがのおそれがあります。

ハンドルに物をさげたり、ペットを引いて乗らない

禁止

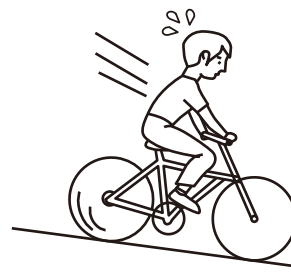
車輪に物が巻き込まれたり、バランスを崩して転倒し、事故・けがのおそれがあります。

片手運転、手ばなし運転をしない

禁止

危ないときによけたり止まることができず、事故・けがのおそれがあります。必ず両手でハンドルを握ってください。

下り坂でブレーキをかけっぱなしにしない。

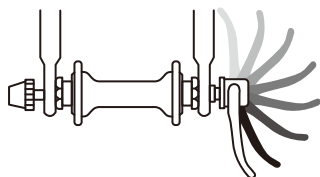
禁止

ブレーキが加熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。ブレーキは小刻みにかけてください。

安全上のご注意

⚠警告

危険です、必ずお守りください！

正しい取扱い方法を守る

強制

間違った取り扱いをすると事故・けがのおそれがあります。

交通ルールを守る

強制

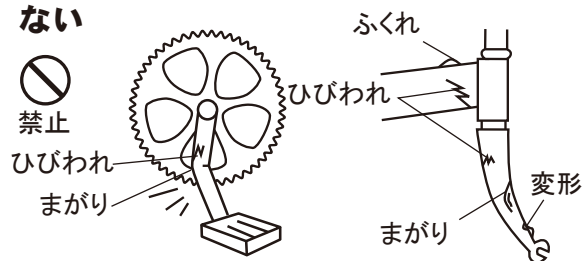
交通ルールを守らないと事故でけがをしたり、他の人にけがを負わせるおそれがあります。

改造･分解･突出物の装着および指定箇所以外の調整はしない

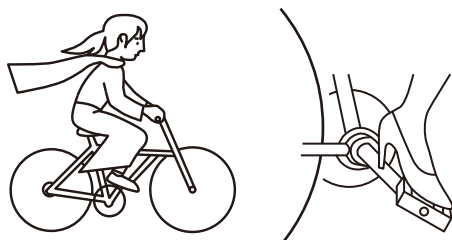
禁止

正しく動かずに事故を起こしたり歩行者に危害をおよぼすおそれがあります。

パンクや故障など異常があるときは乗らない

禁止

事故・けがのおそれがあります。
異常を発見したら使用せずに、すぐお店にご相談ください。

引っかかりやすい服装やすべりやすい靴かかとの高い靴などをはいて乗らない

禁止

転倒するおそれがあります。ズボンのすそはセイフティバンドやクリップなどでとめて乗ってください。

初回・定期・日常の点検は必ず実施する

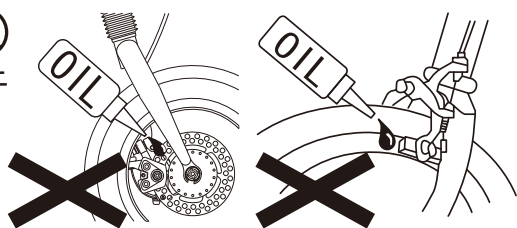
（点検方法⇒P.9）

強制

長く使っているとネジがゆるんだり調整がズレたりしてきます。必ず実施してください。

ブレーキに油をつけない

（お手入れと保管⇒P.17）

禁止

ブレーキに油がつくとブレーキが効かなくなり、事故・けがのおそれがあります。

安全上のご注意

⚠注意　安全のために必ずお守りください！

走行するとき

強制

●タイヤに十分空気を入れてから乗る。
（空気圧が低いと早くタイヤが減り、パンクもしやすくペダリングが重くなります）
（適正な空気圧は 16 ページをご覧ください）

ブレーキをかけるとき

強制

●いつでもブレーキレバーを握れるようにして乗る。
●ブレーキをかける際には ①後ブレーキ ②前後ブレーキ の順でかける。（片方だけかけるとスリップして危険です）
●急ブレーキをかけないでいいように、いつも前方に注意してスピードをひかえめにする。
●雨天時はスリップしやすく、ブレーキが効きにくくなります。ゆっくり走行してください。

カーブを曲がるときは

強制

●カーブで急ブレーキをかけない。（横すべりして危険です）
●カーブを曲がるときは手前でスピードを落とす。
●カーブでは、車体を傾けすぎない。また、ペダリングを止める。（変速機が路面に当たるおそれがあります。また、傾いている側のペダルが下になっていると、ペダルが路面に当たるので危険です）

衝突や転倒したときは

強制

●必ず点検する。
●異常を発見したら使用せずに販売店に相談する。

乗りなれない自転車を乗るときおよび初心者の方は

強制

●空き地や公園など安全な場所でよく練習してください。

回転部分には

禁止

●手や足を入れない。子供がそばにいるときなど、周りの状況に配慮する。（挟まって大ケガをします）
●スポークの間に物を入れたり挟んだりしない。（車輪に挟まって転倒するおそれがあります）

風・雨・雪がひどいときや視界が悪いとき

強制

●無理に乗らない。自転車から降りて押して歩く。

サビを防止し、長持ちさせるために

強制

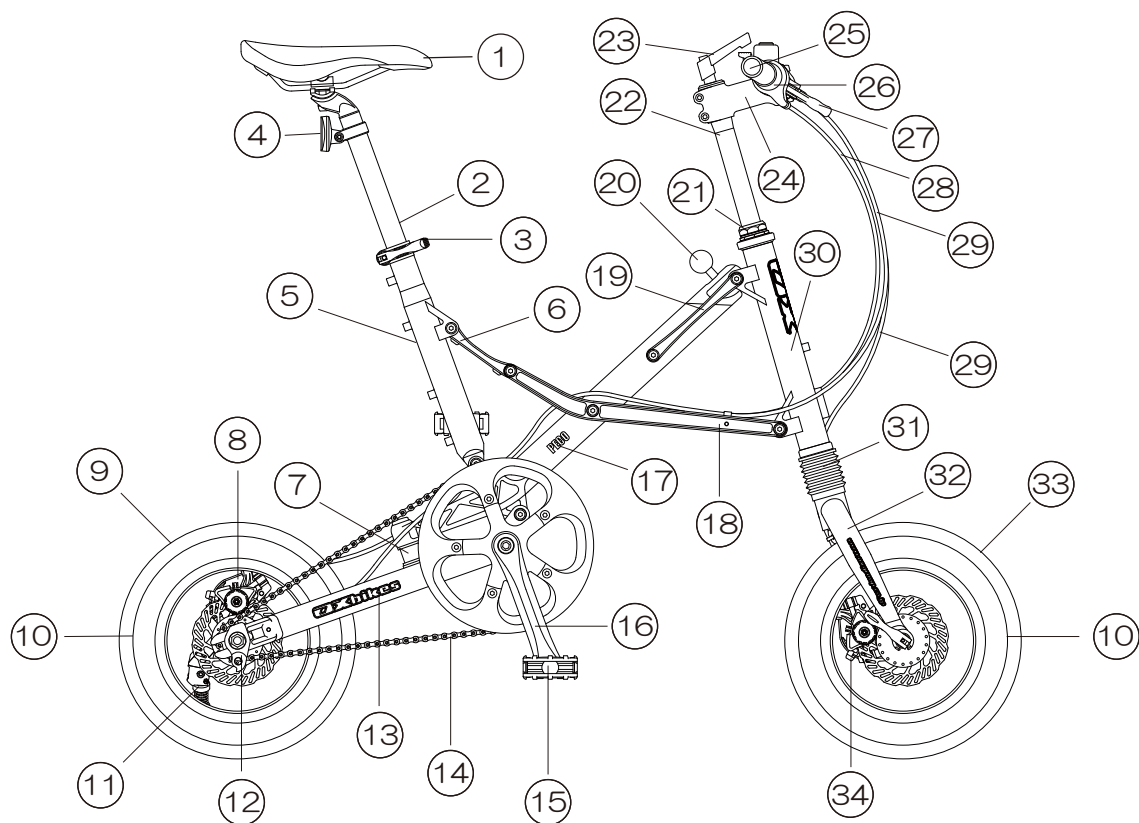
●定期的に手入れをする。（手入れの仕方は 17 ページをご覧ください）

走行目的以外の使用

禁止

●踏み台にするなど、走行目的以外に使わない。（転倒してけがをするおそれがあります）

各部の名称

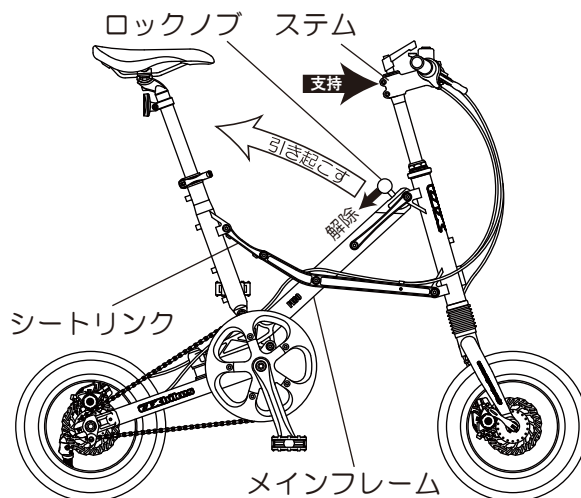
ご利用いただく前に、必ずこの取扱説明書をよく読み、すべてのパーツと構成部品についてよくご理解ください。

① サドル	② シートポスト	③ シートクランプ	④ リフレクター	⑤ シートフレーム
⑥ シートリンク	⑦ リアクッション	⑧ リアブレーキ	⑨ 後輪	⑩ タイヤ
⑪ スタンド	⑫ 変速機	⑬ スイングアーム	⑭ チェーン	⑮ ペダル
⑯ クランク	⑰ メインフレーム	⑱ サイドフレーム	⑲ ヘッドリンク	⑳ ロックノブ
㉑ ヘッドパーツ	㉒ ハンドルポスト	㉓ 固定レバー	㉔ ステム	㉕ ハンドルグリップ
㉖ シフター	㉗ ブレーキレバー	㉘ シフトワイヤー	㉙ ブレーキワイヤー	㉚ ヘッドフレーム
㉛ フロントスプリング（内部）	㉜ フロントフォーク	㉝ 前輪	㉞ フロントブレーキ	

折りたたみ・展開

【折りたたみ方】

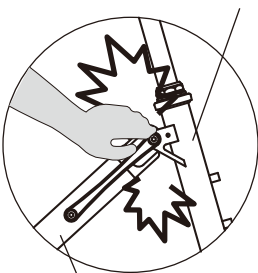
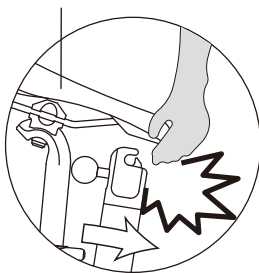
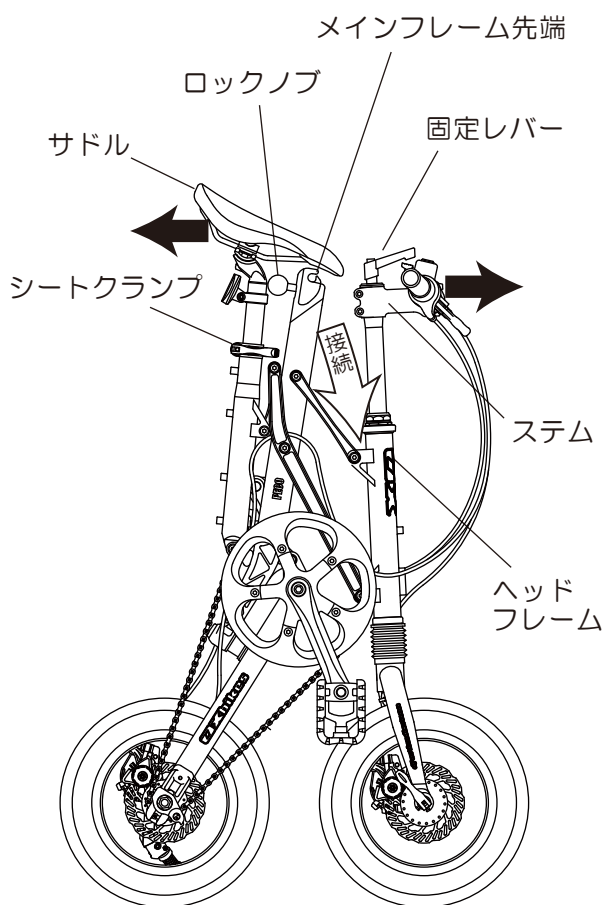
1)片手でステムを支持し、もう一方の手でロックノブを解除する。
2)ロックノブを解除したまま⇦矢印の方向へ引き起す。
3)ロックノブ側の手をサドルに持ち替える。
4)シートリンク裏面のクッションとメインフレームが接触するまで折りたたむ。

⚠注意

サドルが低いとフレーム先端（ロックノブ周辺）と接触して完全に折りたためないことがあります。必要に応じてサドルの高さを調整してください。

【展開方法】

1)ステムとサドルを⬅矢印の方向に開く。
2)メインフレーム先端をヘッドフレームとの接続部にしっかりとはめ込む。
3)必要に応じてサドルの高さを調整する。
4)固定レバー・シートクランプ・ロックノブが確実にロックされていることを確認する。

⚠注意

折りたたみ自転車を広げる際に、サドル先端部を持つと、メインフレーム先端部に指をぶつけるおそれがあります。
また、ヘッドフレーム接続部などに手を挟まないようにご注意ください。

正しい使用条件

【標準常用速度】

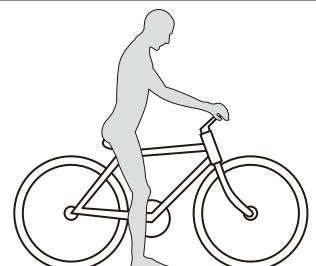
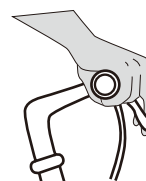
●この自転車は、小径ホイールを使用しているため、高速で走行すると、小さな段差でもバランスを崩すことがあります。

> **⚠警告**
>
> 高速での事故・転倒は大ケガのおそれがあります。スピードはいつもひかえめにしてください。

【標準適用体格】

●身長　150cm～180cm
●サドルに腰をおろしペダルを下にさげて足を乗せたとき、ひざに余裕があるように調整できること。初心者の方はサドルに腰をおろしたとき、踵（かかと）が地面につくこと。
●ブレーキレバーを余裕をもって握ることができること。

両足が地面にとどく

> **⚠警告**
>
> 足が地面に届かない方は乗らないでください。

ブレーキレバーは余裕をもって

【耐荷重】

●80kg以下

点検方法

❗強制	乗るまえの「日常点検」と販売店にお願いする「初回点検」「定期点検」を必ず実施してください。

【初回点検】

●購入後 100km 到達時または、２か月以内に点検を受けてください。初期は特にネジが緩みやすいので、必ず販売店で点検を受けてください。

【定期点検】

●購入後６か月以内、１２か月以内、その後は１年ごとに点検を受けてください。安全に長くお使いいただくために必ずお店で定期点検を受けてください。長い間使用せず、再び使用するときも点検をお受けください。

【日常点検】

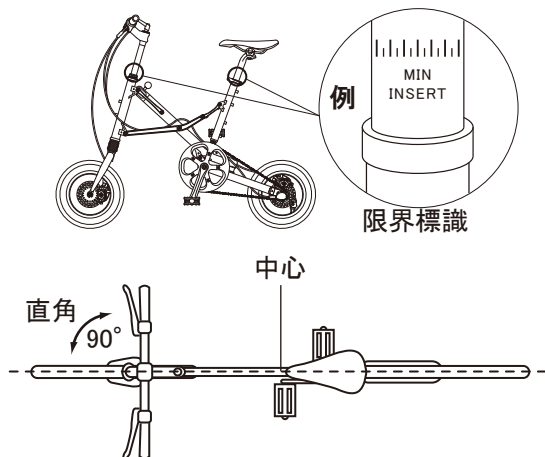
●乗るまえに必ず点検し、安全を確かめてから乗ってください。変形や破損している部分は必ず新品と交換してください。

各部の点検

点検方法

【ハンドル・サドル】

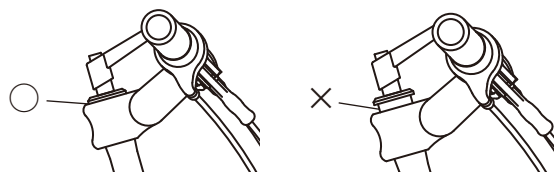
● **ハンドル・サドルの組付け**

禁止 挿入不足で使用しない。

※限界標識が見えなくなるまで差込まれていること。
※ハンドルが前輪に対し直角に固定されていること。
※サドルがフレームと平行に固定されていること。
※サドルに座ってブレーキやハンドルを無理なく操作できること。

（調整方法⇒P.12〜13）

● **ハンドルの固定**

（前輪を足で固定してハンドルを動かしてみる）

※固定レバーを締めて､力を入れても回らないこと。

※隙間が開いていないこと。

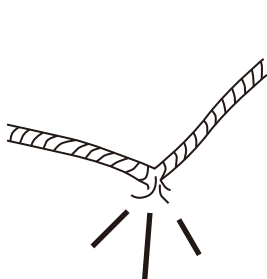
● **サドルの固定**

（サドルの前後を持って動かしてみる）

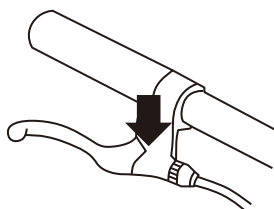
※シートクランプのレバーを締めて、力を入れても回らないこと。

【ブレーキ】

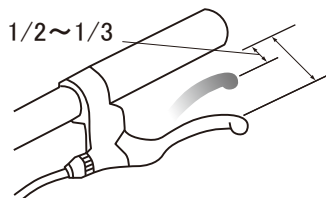
強制	ブレーキワイヤーは消耗品です。 異常がなくても2年に1度は交換してください。

● **ワイヤーのサビ・切れ・ほつれ**

● **レバーの固定**

（指で押してみる）

※サビ・切れ・ほつれがないこと

※ズレ動かないこと

● **ブレーキの効き具合**

（レバーを引いて効き具合をみる）

※すきまが1/2〜1/3になるまでにブレーキがよく効くこと
※レバーの作動が重くないこと

● **ブレーキパッドの減り**

※ブレーキパッドの残りが1㎜以上あること

（調整方法⇒P.14）

点検方法

【車　輪】

●固定（自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいてみる。）

※車輪がズレたりガタついたりしないこと。
※本製品には、着脱が簡単に行える、クイックレリーズ・ハブを使用しています。このクイックレリーズ・ハブを自転車に正しく取付けないと、走行中に車輪が外れ、重傷を負うおそれがあります。**<u>車輪の着脱や下記≪クイックレリーズの調整方法≫は、取扱に不安のある方はお買い求めの販売店にご依頼ください。</u>**

※車輪を地面から浮かせて車輪を強くたたく。

〈クイックレリーズ〉

≪クイックレリーズの調整方法≫

1）レバーを開く。
2）レバーの反対側にあるナットを回して固さを調整する。
3）レバーを閉じるときの力は、レバー先端に、100N（10kgf）～160N（16kgf）の力で閉じられるように、ナットで固さを調整してください。
4）ホイールが十分に固定しなかったり途中でレバーが固くて閉じられないときは、もう一度固さを調整しなおしてください。

※レバーはローターの反対側。

⚠警告
クイックレリーズのレバーは、走行中に引っかかて開いてしまうことがないようにレバーの位置に注意する。

●空気圧

※十分空気が入っていて、タイヤに表示してある空気圧になっていること。
（調整方法⇒P.16）

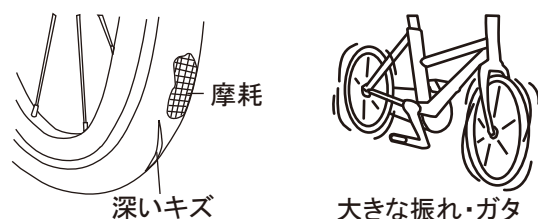
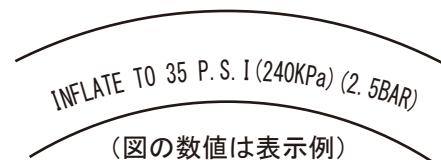
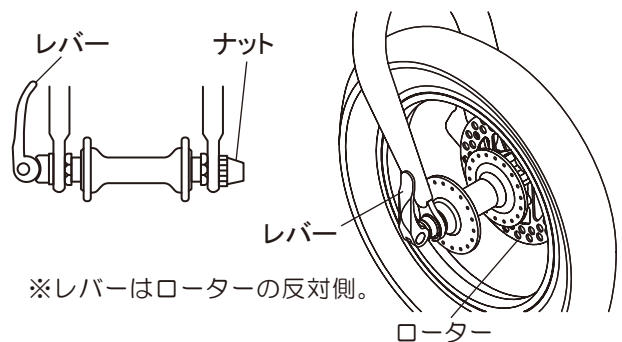
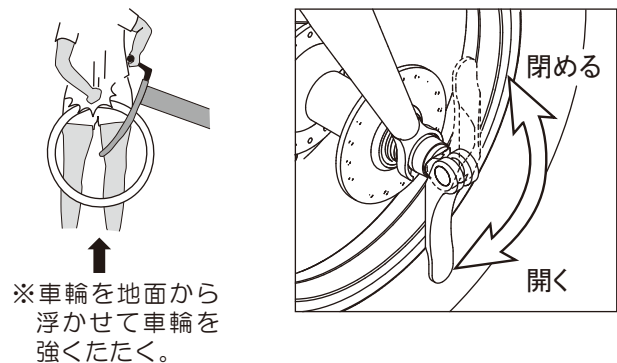
（図の数値は表示例）

●タイヤのキズ・摩耗

※内部の繊維が見える深いキズがないこと。
※接地面の溝が十分残っていること。

●振れ・ガタ・回転性（自転車を持ち上げて車輪を回してみる。）

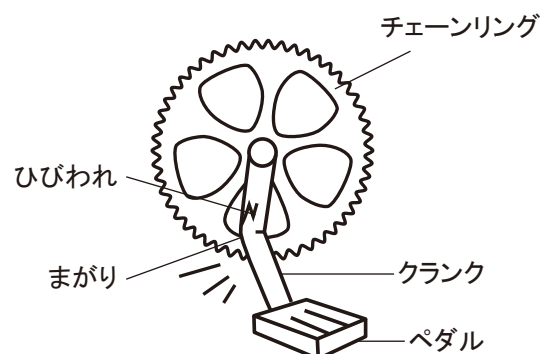
※スムーズに回転し大きな振れやガタがないこと。

大きな振れ・ガタ

【チェーンリング・クランク・ペダル】

● チェーンリング・クランク・ペダル

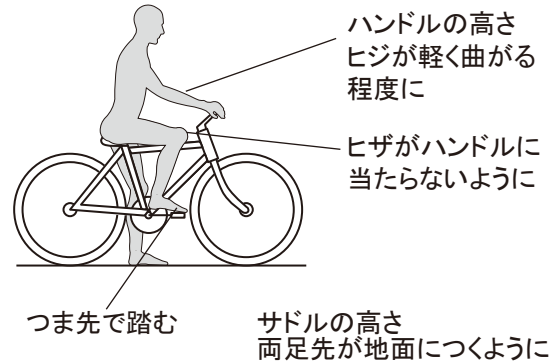
※ガタがなくスムーズに回転し、チェーンが外れないこと。
※変形やひび割れがないこと。

● チェーン

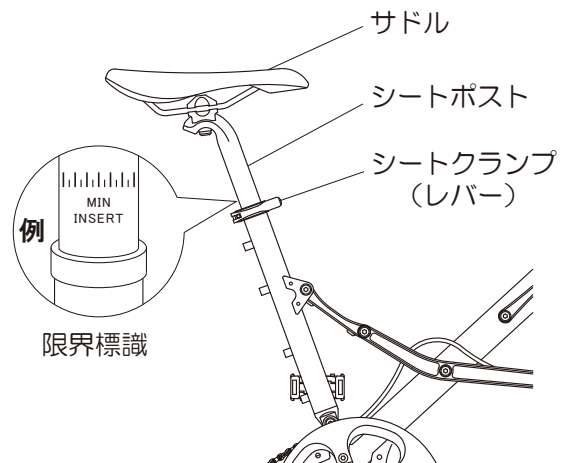
※油切れがなく、指で動かしてみたときなめらかに動くこと。
※チェーンが大きくたるんでないこと。

各部の調整方法

安全を確保するために、各部の調整は注意点を守って確実に行ってください。
これを怠りますと思わぬ事故につながります。ご不明な点がありましたら、販売店にご相談ください。

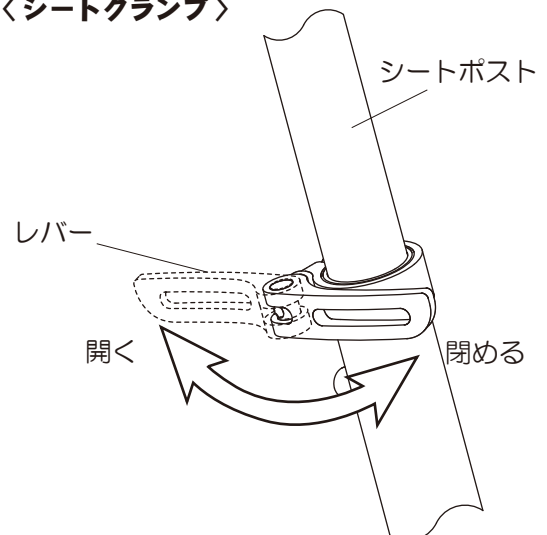
【正しい乗車姿勢】

サドルに腰をおろし両手をハンドルにおいた状態で、
- ●両足先が確実に地面につくこと。
- ●上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。
- ●ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず、安全にハンドルの操縦操作ができること。
- ●円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、ベルなどが安全に操作できること。

【サドルの高さ調整】

1)レバーを開く。
2)サドルを最適な高さに調整する。
3)サドルを正面に向ける。
4)レバーをしっかりと閉める。（P.13）

（**点検方法⇒P.10**）

⚠警告

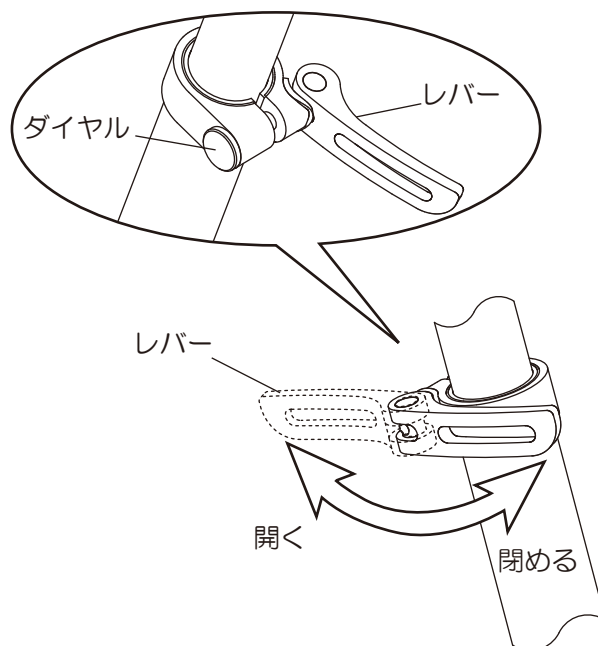
最も高くした場合でも、シートポストの限界標識が見えなくなるまで挿入してください。限界標識が見えていると、サドル（シートポスト）の折れや抜けにより事故・けがのおそれがあり危険です。

〈シートクランプ〉

各部の調整方法

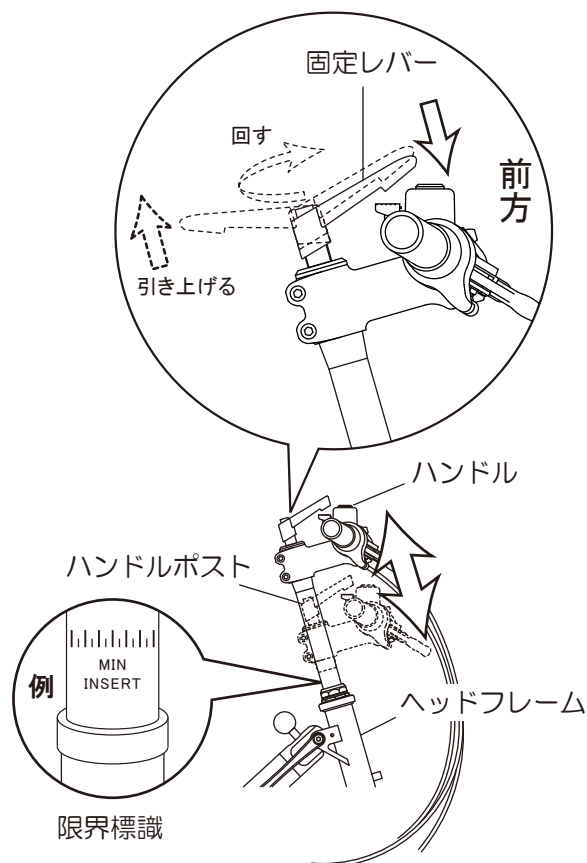
【シートクランプの固さ調整】

1)レバーを開く。
2)レバーの反対側にあるダイヤルを回して固さを調整する。
3)レバーを閉じるときの力は、レバー先端に、100N(10kgf)～160N(16kgf)の力で閉じられるように、ダイヤルで固さを調整してください。
4)シートポストが十分に固定しなかったり途中でレバーが固くて閉じられないときは、もう一度固さを調整しなおしてください。

(点検方法⇒P.10)

〈シートクランプ〉

【ハンドルの高さ調整】

1)固定レバーを反時計回りに緩める。
2)ハンドルの高さを、乗車に最適な高さに調整する。
3)ホイールに対しハンドルが直角になるように調整する。
4)固定レバーを時計回りに締め、しっかりとハンドルを固定する。
5)固定レバー先端を図のように車体前方に向ける。
※固定レバーは、引き上げながら回すことで、締め付けを変えることなくレバーの向きを変えることが出来ます。

(点検方法⇒P.10)

⚠警告

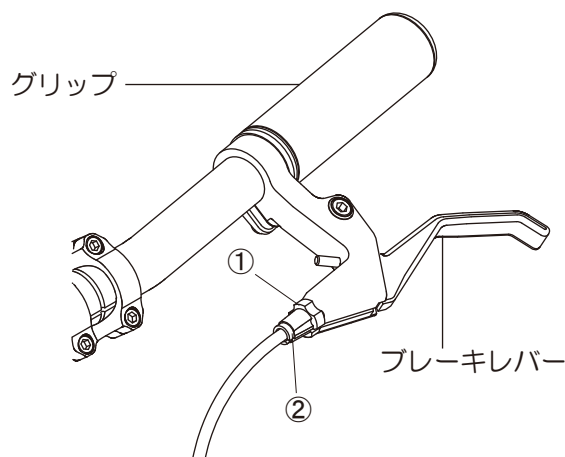
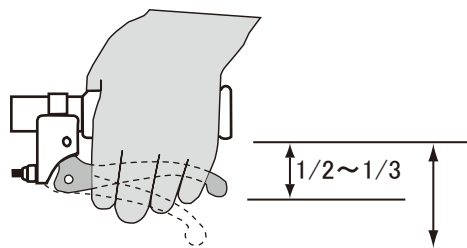
最も高くした場合でも、ハンドルポストの限界標識が見えなくなるまで挿入してください。限界標識が見えていると、ハンドルの折れや抜けにより事故・けがのおそれがあり危険です。

各部の調整方法

【ブレーキの効き調整】

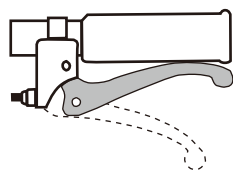
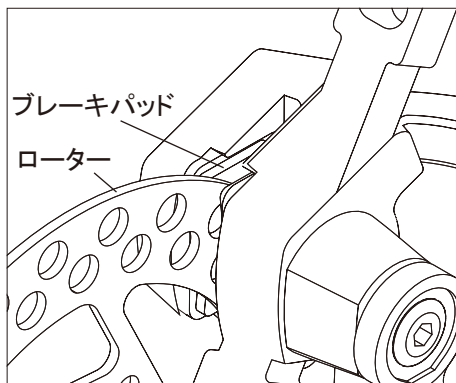
◆長い間使っているとブレーキレバーのあそびが大きくなり、効きが悪くなってきます。常にブレーキが効くように調整してください。

≪調整方法≫

1）①を緩める。
2）②をまわし適切な効き具合にする。※ブレーキレバーを引いてグリップとの隙間が 1/2 〜 1/3 になるまでにブレーキが良く効くように調整する。
3）①を締めて②を固定する。
4）ホイールを回転させ、ディスクブレーキ周辺から音がしないか確認する。**※擦るような音がする場合ワイヤーを張りすぎています。調整しなおしてください。**

⚠警告
ブレーキ各部はこの説明書に記載されているところ以外は、絶対に自分で調整しないでください。

強制 つぎの場合には販売店にご相談ください。

◆上記≪調整方法≫で調整しきれない場合。
◆ブレーキの効きが悪くなったとき。
◆ブレーキパッドが 1 mm まで摩耗した場合。
◆ブレーキパッドがローターに当たったままになっているとき。

〈ディスクブレーキ〉

ブレーキの効きが悪くなった

ブレーキパッドが 1 mm まで摩耗した

ブレーキパッドがローターに当たったままになっている

各部の調整方法

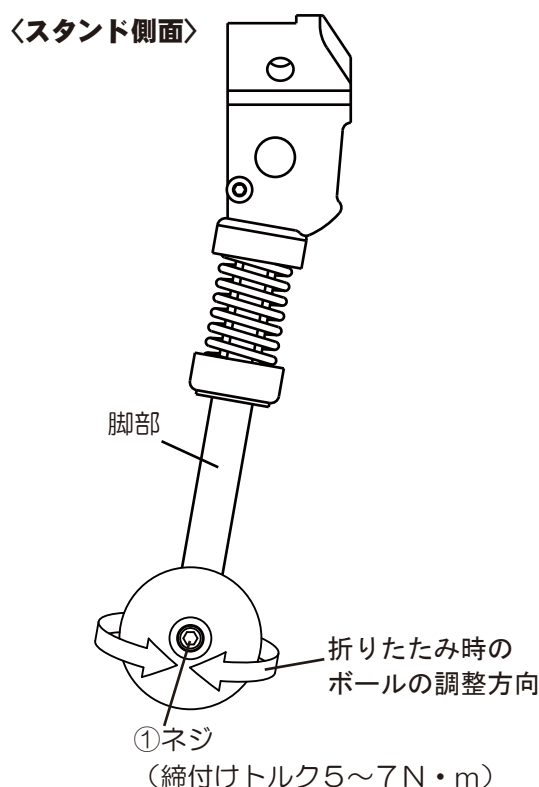
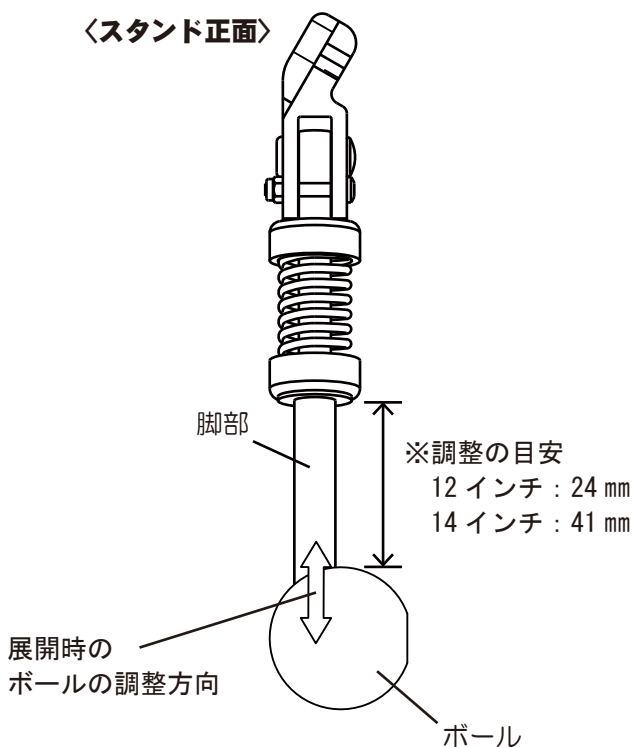
【スタンドの調整】

◆スタンドは、「脚部」と「ボール」の取付けを偏心させることで、“展開時”と“折りたたみ時”の異なる角度での使用を可能としています。

展開時（乗車可能な状態）
ボールの上下により調整します。

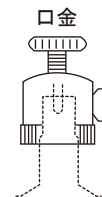
折りたたみ時
ボールの回転により調整します。

≪調整方法≫

1）車体を展開し、スタンドを使用状態にする。
2）車体が倒れないように支えながら３㎜のヘキサゴンレンチで①ネジを緩める。
3）ボールを上下に移動しスタンドで自立できる位置にする。（下記「※調整の目安」参照。）
4）①ネジを仮止する。
5）車体を折りたたむ。
6）ボールが上下しないように注意して①ネジを再度緩める。
7）“脚部”を中心にボール※を左右に回転させて自立できる位置で①ネジを締める。
※磨耗により調整しきれない場合は、ボールを交換してください。

正しい取り扱い

【タイヤへの空気補充】

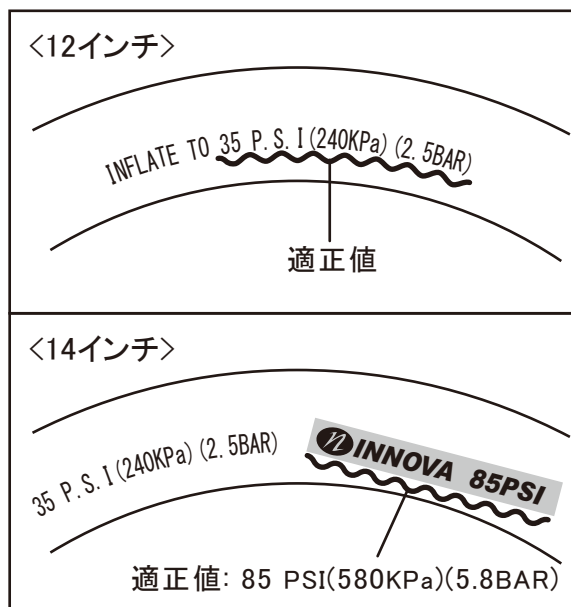
◆お買い上げいただきました自転車のタイヤバルブは米式です。米式バルブに合ったポンプで空気を補充してください。ポンプの口金は製造メーカーによって異なりますので一例を示します。詳しくは販売店にご相談ください。

〈米式バルブの形状〉　〈ポンプ(口金)の種類〉

〈空気の入れかた〉

◆ボディーにポンプの口金を取付けて空気を入れ、空気圧を確認する。

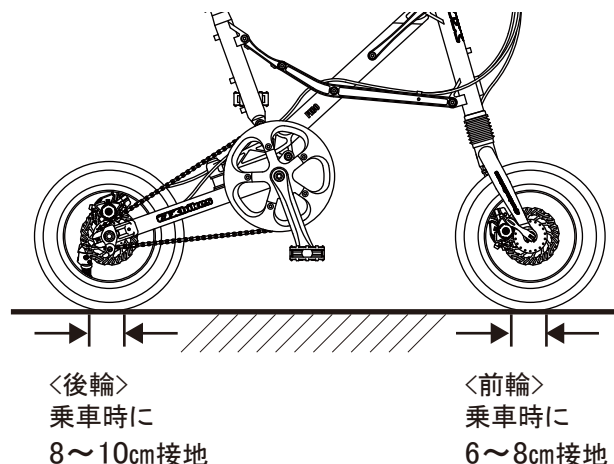
【空気圧の測定】

◆タイヤに表示してある空気圧になっていること。(図の数値は表示例)
◆使用する空気入れのメーター表記にしたがい、タイヤに表記された空気圧の指示に合わせてください。
◆乗車時に地面との接地面の長さが < 前輪 >6 ～ 8 ㎝、< 後輪 >8 ～ 10 ㎝を目安としてください。
※体重などにより異なります。

〈タイヤ空気圧表示例〉

⚠注意

空気圧が少ないと、タイヤの接地面積が広くなって走行抵抗が増し、ペダリングが重くなります。また、タイヤの摩耗やパンク、リムの変形の原因になります。
空気圧が高すぎると、タイヤの破裂・劣化の原因になります。必ずタイヤに表示している空気圧で使用してください。

〈タイヤ空気圧の目安〉

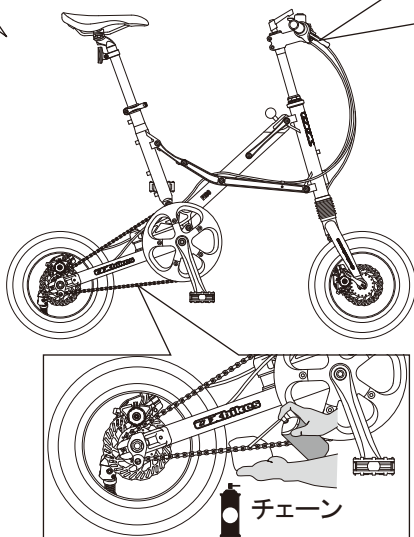
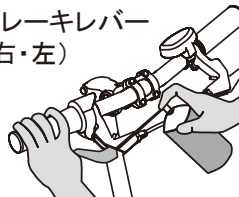
乗車時の接地面の長さ
〈前輪〉6～8㎝ / 〈後輪〉8～10㎝
※体重などにより異なります。

お手入れと保管

【お手入れのしかた】

乾いた布やブラシでホコリや汚れをよく落としてからお手入れしてください。汚れがひどいときは水洗いをしてよく乾かしてください。

●メッキ・ステンレス部は、「サビ止め油」や「機械油」を少しふくませた布でふいてください。
●湿気・粉塵の多いところに置くときは、お手入れの回数を多くしてください。

〈注油箇所〉

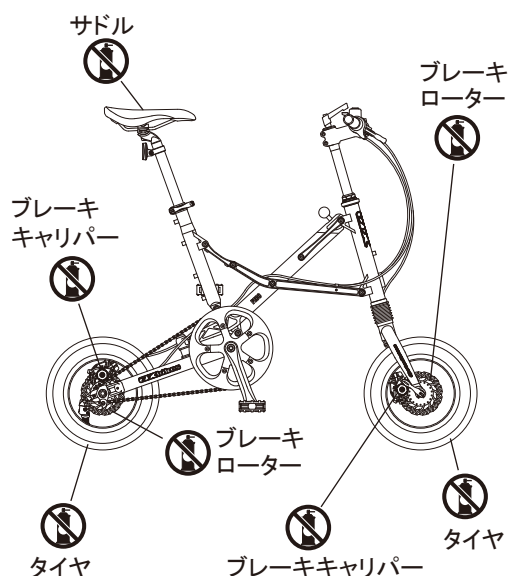
この記号の箇所に注油してください。(半月に1回程度または150km走行ごと、清掃完了後)
※注油箇所によって使用する油が異なります。ご不明な場合は、販売店にお問合せください。

⚠注意

○注油は、用途に合った油により、適切な方法で行ってください。誤った注油は、部品の寿命を縮めたり故障の原因となります。

○絶対にタイヤにワックスをつけないでください。タイヤにひび割れが生じます。

⚠警告

注油禁止箇所

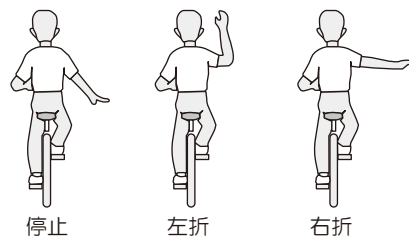
この記号の箇所には絶対に「油」や「グリス」をつけないでください。

【保管するときは】

● 雨のかからない乾燥した場所に保管してください。屋外に保管される場合にはサイクルカバーやビニールシートを使用してください。
● 盗難防止のため必ずカギをかけて保管してください。
● 転倒などしないように安全なところに保管してください。

交通ルールを守りましょう

【交通ルールを守りましょう】

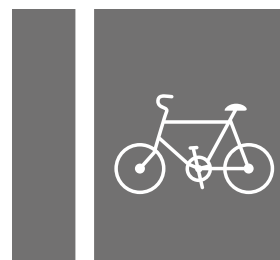
1.自転車の正しい乗り方

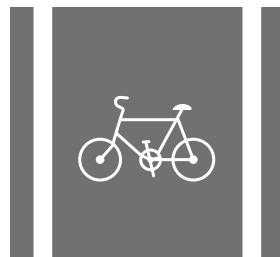
●発進するときは、見通しのきく道路の左側で、後方と前方の安全を確かめる。
●右折、左折するときは、早めに合図する。
●停止するときは、安全を確かめて停止の合図を行い、道路の左側に沿って停止し、左側に降りる。

停止　左折　右折

2.自転車の通るところ

●車道を通るときは、車道の左側に沿って通行する。
●自転車は路側帯を通ることができますが、歩行者の通行に大きな妨げになるところや、白の二本線の標示（歩行者専用路側帯）があるところは通れません。
●自転車歩道通行可の標識のある歩道は、つぎの方法により通行することができます。
・歩道の車道寄りの部分を徐行する。
・歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止する。
●自転車道のあるところでは、自転車道を通る。
●道路を横断するとき、近くに自転車横断帯があれば、自転車横断帯を通る。自転車横断帯がなく近くに横断歩道があるときは、自転車を押して横断歩道をわたる。

自転車および歩行者専用

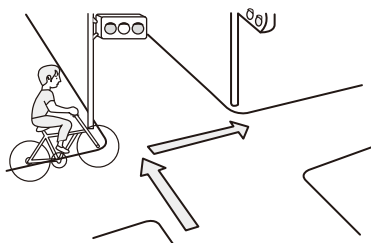
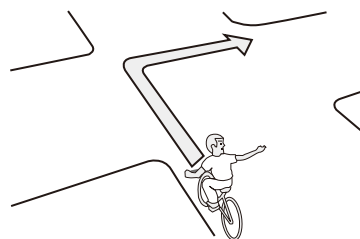
普通自転車の歩道通行部分

自転車専用

自転車横断帯

3.自転車が通行できる歩道、路側帯を通るときの注意

●歩行者の通行を妨げない。
●こども、身体の不自由な人が歩いているときは、一時停止か、十分速度を落とす。

4.交差点の通り方

●右折の方法

信号などや交通整理が行われているところ

信号がなく交通整理が行われていないところ

●自転車横断帯があるときは、その自転車横断帯を通る。
●自転車進入禁止標識のある交差点では、左側の歩道に乗り入れて自転車横断帯を通る。

交通ルールを守りましょう

【交通ルールを守りましょう】

5.自転車を駐車するときの注意

●自転車を駐車するときは、歩行者や車の通行の妨げにならないように注意し、必ずカギをかける。自転車駐車場がある場合にはそこに置く。

6.走行中の注意

●自動車のすぐうしろに続いたり、それにつかまって走らない。
●自動車が渋滞しているときは、その前に割り込んだり、車の間をぬって前へ出ない。

●他の自転車と並んで走ったり、ジグザグ運転をしたり、競争をしない。
●横断、転回する場合は、自転車横断帯か横断歩道を渡る。これらがないところでは見通しのきくところで車の途切れたときに渡る。

●止まっている自動車のそばを通るときは、急にドアが開いたり、かげから歩行者がとび出したりするので注意する。
●交差点近くでは、左折する自動車に巻き込まれないように注意する。

●一時停止の標識があるところや狭い道から広い道へ出るときは、一時停止して安全を確認する。
●自転車に乗るときは、運転者から見やすいように明るく目だつ色の衣服を着る。

●路面が凍結や工事中の鉄板などですべりやすいところや、風雨・雪の強いとき、視界が悪いときは、自転車を押して歩く。
●曲がり角や障害物で見通しの悪いところでは、スピードを落として注意して通る。

●酒を飲んだときや疲れが激しいときは乗らない。

定期点検・整備チェックリスト

■1 回目（２ヵ月以内）の点検、整備

●お買い上げ２ヵ月位のご使用で、各部のネジがゆるむことがあります。点検を行い異常のある場合は販売店にご相談ください。

■2 回目以降の点検、整備

●末永くご愛用していただくため、お買い上げ後６ヵ月毎の定期点検、整備を継続してください。

■点検、整備は有料です。販売店にご相談ください。

⚠警告

ブレーキワイヤーは異常がなくても２年に１回は交換してください。

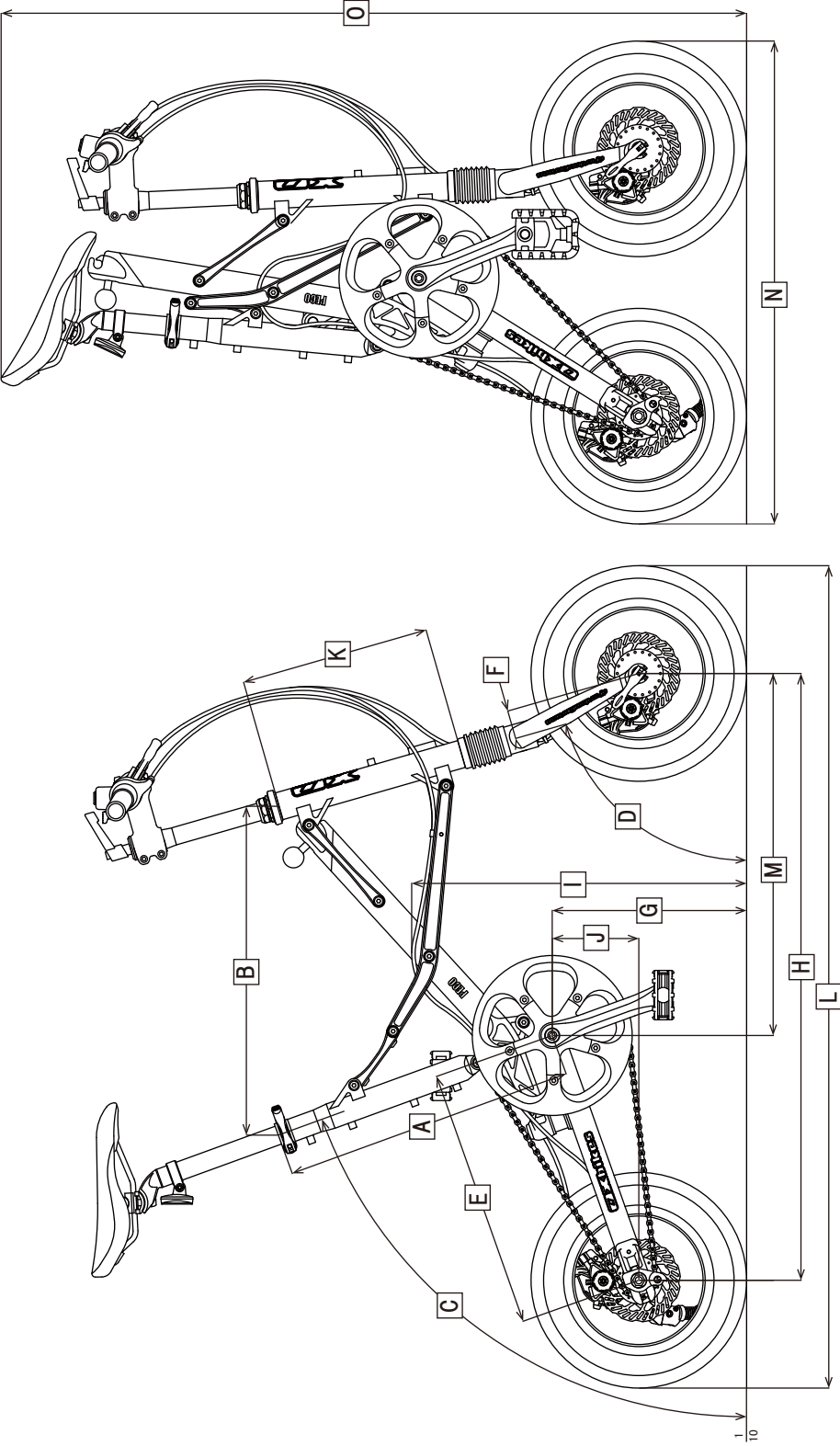
※は市販のパーツを装着した場合

V：異常なし　A：調整・注油　△：修理　×：取替　C：清掃　その他

		点　検　項　目　と　内　容	初回 2カ月	2回目 6カ月	3回目 1年	4回目 1年半	5回目 2年	6回目 2年半
フレーム全体		●折りたたみ動作 ●曲がり・ひび割れ・ガタ						
リアクッション		●締付・固定 ●キズ・ひび割れ						
フロントフォーク		●ヘッドパーツの回転・ガタ ●クッションの動き						
ハンドル		●ハンドルポストの挿入深さ ●固定レバーの動き・締付 ●ハンドルの取付・固定						
サドル		●シートポストの挿入深さ ●シートクランプの動き・締付 ●シートポストとサドルの固定						
ブレーキ		●各部の固定 ●レバーの引き代・ブレーキの効き ●ワイヤーの錆・ほつれ ●レバー、ワイヤーの油切れ ●ブレーキローター・パッドの摩耗						
クランク		●クランク・チェーンリングの締付・固定 ●クランク・チェーンリングの変形・ひび割れ						
ペダル		●締付・固定 ●軸の曲がり ●回転・ガタ						
チェーン		●油切れ ●チェーンの張り・たるみ						
車輪	ハブ	●車軸のガタ ●ナット・クイックレリーズの締付・固定						
	タイヤ	●キズ・摩耗●空気圧						
	リム	●変形・振れ						
	スポーク	●変形・折れ・緩み						
変速機		●油切れ ●変速動作						
ベル		●鳴り具合 ●取付・固定						
リフレクタ		●汚れ・割れ ●取付・固定						
ランプ　※		●取付・固定・点灯						
スタンド		●折りたたみ、展開時の自立 ●取付・固定						
各部ネジ		●緩み・折れ						
実　施　年　月　日　（　年　月　日　）			. .	. .	. .	. .	. .	. .
実　施　者			印	印	印	印	印	印

＊販売店様へ：クランクの締付をチェックし、増し締めしてください。（初回は必ず）

仕様諸元

A	シートチューブレングス	419.1mm〔16.5″〕
B	トップチューブレングス	474mm ＊水平距離
C	シートチューブアングル	69°
D	ヘッドチューブアングル	73°
E	チェーンステーレングス	373mm
F	フォークレイク	41mm
G	ボトムブラケットハイト	280(297)mm
H	ホイールベース	875mm

I	スタンドオーバーハイト	500(517)mm
J	ボトムブラケットアップ	125mm
K	ヘッドチューブレングス	273mm
L	トータルレングス	1,185(1,220)mm
M	フロントセンターディスタンス	520mm
N	フォールディングレングス	700(735)mm
O	フォールディングハイト	1,080(1,115)mm

※( )内は14インチ装着車。

販売元
株式会社オーエックスエンジニアリング
〒265-0043 千葉市若葉区中田町2186-1
URL www.oxgroup.co.jp

不法廃棄はしないでください。

FB03取扱説明書<基編>
2015年4月第7版